

## 2018年度の活動を振り返って

ホーチミン日本商工会議所会頭

門脇 恵一



2018年度は、本所にとって記念すべき年となりました。まずは名称変更です。2017年度までは「ホーチミン日本商工会」として活動してきましたが、これを「ホーチミン日本商工会議所」に変更しました。英文では「Japanese Chamber of Commerce & Industry in Ho Chi Minh City」(JCCH)となり、世界的にも通用しやすい名称となりました。

もう1つは会員数が1,000社を超えたことです。2019年3月現在1,022社に達しています。これは上海、バンコクに次ぐ世界第3位の規模。7月には当地にアセアン域内10カ国の日本商工会議所の会頭が集合し国際会議を行いました。域内ではJCCHが会員の増加数・増加率ともトップです。今最も勢いのある都市という事を再認識しました。

また2018年は日越外交関係樹立45周年、JCCH認可20周年の節目の年でもありました。市・省の45周年記念式典、NHK交響楽団ホーチミン公演、坪井教授のご講演など、多数の記念イベントに、JCCHも共催・後援などの形で参加しています。

毎年、継続してきた活動も、向上・拡大・進化しています。

17回目を迎えたホーチミン市人民委員会とのラウンドテーブル(対話集会)では、重要問題に一層焦点を絞った議論がなされました。ホーチミン市以外の省でも日越の対話集会はありますが、実は日本とだけ開催しているのが殆どです。ホーチミン市人民委員会の実務担当者は「準備、フォローアップも含めて適切な資料を日本語・ベトナム語で作成してくれるのは日本(商工会議所)だけだから」と言っていました。面白い考察だと思います。

これ以外にも、JCCHとドンナイ省商工局共催のビジネスマッチング、JCCH会員企業とホーチミン市税関局とのセミナー、製造業(ドンナイ部会)とサービス業(第一・第二サービス部会)の合同部会など、会員企業の実利に繋がる有意義な取組みを行うことができました。

JCCHの活動方針の柱の1つに「社会貢献」があります。本年度も、ロンアン省の農村の川にコンク

リートの「橋」を架け替えるプロジェクトを実行しました。JCCHとして通算4本目になる「日本橋」です。村の皆さん、特に子供達の満面の笑顔を見るとこれこそ社会貢献活動の真価という気がします。日本語の普及に関しても、ホーチミン市公安(警察)の日本語要員養成や、中高生日本語スピーチコンテストに資金支援を行いました。

文化・スポーツイベントでは、7月のゴルフ大会が307人、12月のマラソン大会が1,600人、1月のジャパン・ベトナム・フェスティバルが33万人、いずれも史上最多、商工会議所活動の充実ぶりを表す数字でした。

一方で心残りもあります。2018年度の開始時に私は、「新生JCCH-1,000社と共に新たなステージへ」というスローガンの下、「規模とニーズに見合う運営体制の構築」「実利ある活動の更なる追求」「成長するベトナムとの共生」を目標に掲げました。このうち、事務局の増員や会員名簿の実用的刷新、ベトナムとの共生は実現しつつあります。しかしながら私が考えていた「自前の会議室・会員交流スペース等をJCCH事務局に具備したい」という願いは実現できていません。ハードウェアの改善は次の代の皆さんに引き続きご検討頂きたいと思います。

また1,000社を超える組織のニーズに応える為、慎重遠慮な古いマインドセットを変える果敢な取組みが求められています。各種活動を会員企業のボランティアで支えるのには無理がある事も事実です。外部への委託なども含めた現実的・効率的な運営も必要になってくるでしょう。

今回私は、例外的に2期連続で会長・会頭職を務めました。この2年間、支えてくださった皆様に、心からのお礼を申し上げます。執行役員、部会理事および委員の方々をはじめとする会員企業の皆様、総領事館、ジェットロなど関係諸機関の皆様、そして上田事務局長以下、事務局のスタッフのお陰で、長丁場を走り切ることができました。私は3月で日本へ帰任となりますが、JCCHのますますの発展を祈念しております。